

工事説明書

FF型屋内式ガス瞬間湯沸器 製品名 ML-JS5号FF

■工事をされる方へのお願い

- この製品を正しく安全にご使用いただくために、この説明書をよくお読みになって指定された工事を行ってください。
- 設置工事が終わりましたら「設置工事後の点検・確認」及び「試運転」を行ってからお客様に十分な使用説明を行ってください。
- この工事説明書は、取扱説明書とともに必ずお客様にお渡しください。

*この機器は屋内設置型ですので、屋外には絶対に設置しないでください。

*この機器は専用レンジフード（別売）と同時設置しませんとご使用になれません。

【目次】

工事するとき必ずお守りください……………表紙裏

1 設置前のご注意……………1

1-1 機器の確認……………1

1-2 同梱部品の確認……………1

1-3 別売部品の組み合わせ確認……………2

2 設置場所の確認……………3

2-1 機器本体の設置場所について……………3

2-2 機器本体と周囲との離隔距離について……………4

2-3 機器本体と周囲の雰囲気について……………4

2-4 機器本体の電源について……………4

2-5 給排気トップの設置場所について……………5

2-6 給排気トップと周囲との離隔距離について……………5

2-7 給排気延長能力（5m5曲り）について……………7

3 各部の名称・外形寸法図……………9

3-1 機器本体……………9

3-2 給排気トップ（別売）……………9

3-3 給排気部材（別売）……………10

4 機器の設置と電気・ガス・給水接続……………12

4-1 標準設置図……………12

4-2 機器の設置……………13

5 仕様……………19

6 設置工事後の点検・確認……………20

7 試運転……………20

8 試運転時の異常の見分け方と処置……………21

9 お客様への説明……………21

工事するとき必ずお守りください

- この工事説明書は、機器を安全に設置・使用していただくために必要な注意事項が記載されています。機器を設置する前によく読み、十分に理解して工事を行ってください。この工事説明書に記載されている以外の設置が原因で生じた、故障及び損傷・人身事故等は、工事者の責任となります。また保証期間内でも、保証の対象となりませんので注意してください。
- この工事説明書は、誤った設置工事による事故を未然に防ぐため、工事者または使用者の安全に関する重大な注意事項を、マークを付け表示しています。マークの意味は次の通りです。

表 示	意 味
⚠️警告	この表示を無視して誤った工事をした場合に、工事者またはその設置工事後の製品の不具合によって、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠️注意	この表示を無視して誤った工事をした場合に、工事者またはその設置工事後の製品の不具合によって、使用者が傷害を負う可能性または物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
お願い	この表示は本機器を安全・快適に使うために是非守って設置工事をしていただきたい事項を示しています。

⚠️警告

- 設置工事は専門の資格者が行う。
 - ・機器の設置工事は専門の資格・技術が必要です。有資格者による正しい工事を行ってください。
- 工事をされる方へのお願い
 - ・この機器は、「特定ガス消費機器の設置工事の監督に関する法律」（特監法）の対象品です。この機器（給排気工事を含む）の設置工事は、ガス消費機器設置工事監督者の監督のもとに行い、工事終了後は法律で定められたラベルを、指定された箇所に貼ってください。
 - ・この機器は屋内設置型です。屋外には絶対に設置しないでください。
- 設置工事後はチェックリストを確認
 - ・設置工事が終わりましたら、試運転の前にもう一度、機器まわりの工事について点検を行い、「工事説明書」に記載のチェックリストに基づいて再確認をしてください。

⚠️注意

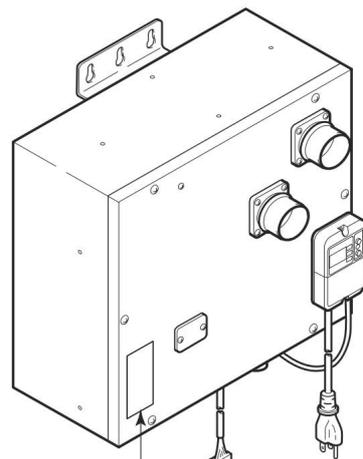
- ガス種及び電源の確認
 - ・機器本体の銘板に表示してあるガス種（ガスグループ）及び電源と、使用するガス及び電源が適合しているか確認してください。表示以外のガス種で使用すると、ガス漏れ・火災等の重大事故になります。
- 給排気筒の工事は厳重に注意
 - ・給排気筒の工事は「工事説明書」と「ガス機器の設置基準及び実務指針（日本ガス機器検査協会刊）」に従って正しく工事を行ってください。
 - ・排気漏れ・給気不足から起因する不完全燃焼は、大変危険です。
 - ・燃焼機器を設置する場所は、建築基準法や電気設備技術基準・火災予防条例に定める防火処置等に適合する必要があります。また、当該地区の市・町・村等の火災予防条例にも従ってください。
- 配管の確認
 - ・設置工事後、誤配管していないか確認してください。特に、ガス接続口に給水を接続して通水した場合は、機器は使用できません。
 - ・機器を交換するか、修理依頼をしてください。そのまま使用するとガス漏れ等の重大事故となります。
- 別売部品の使用について
 - ・別売部品は、必ず当社部品を使用してください。市販品を使用して発生した故障及び・損傷・人身事故等の責任は工事者の責任となります。
 - ・また保証期間内でも、保証の対象となりませんので注意してください。
- 機器の設置について
 - ・機器を設置する際に、衝撃を加えたり・落下させたりしないでください。
 - ・機器内部の部品が破損し危険です。

お願い

- 一般家庭用製品です。
 - ・ この機器は、一般家庭用製品です。業務用（飲食店等）に使用すると、機器の寿命が極端に短くなります。保証期間内の故障でも保証の対象となりません。
- お客様への説明
 - ・ 取扱説明書によって、機器の取扱を説明してください。特に、「必ずお守りください」・「使用方法」・「アフターサービス」等をよく説明してください。

1 設置前のご注意

- ★ この機器は専用レンジフード（別売）と同時設置しませんとご使用になれませんのでご注意ください。
- また、機器及び給排気トップには左右の向きはありませんが、専用レンジフードには外壁に合わせ左・右タイプがありますのでご注意ください。

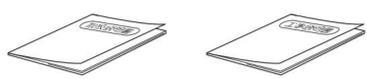


1-1 機器の確認

- 機器本体正面に貼ってある銘板に表示してあるガス種と使用するガス（ガスグループ）の種類が適合していることを確認してください。
- 銘板に表示してある電源（AC100V・アース付コンセント）以外の電源では使用しないでください。

屋内式ガス瞬間湯沸器(FF式)	
型 式	ML-JS5号FF
ガ ス 種	外 壁 用 (FF-W)
	都市ガス 13A・12A用
電 源	13A 11.7kW(10,100kcal/h)
	12A 10.9kW(9,400kcal/h)
製造番号	定格電圧 AC100V
	定格周波数 50/60Hz
	定格消費電力 40W
モリタ工業株式会社	
認証登録番号 TW	
給排気トップ型式	
外 壁 用 : JS-A・JS-B	
JS-C・JS-D	
JS-E・JS-F	
区分名 C	
エネルギー消費効率 80.0%	

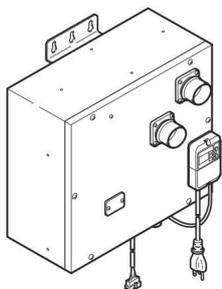
1-2 同梱部品の確認

部 品 名	形 状	個 数
取 扱 説 明 書 工 事 説 明 書		各 1
木 ネ ジ	 4.1×32	各 4
カールPCプラグ	 PC7-35	

1-3 別売部品の組み合わせ確認

⚠注意 ・この機器は別売品との組み合わせにより設置できますが、必ず当社部品をご使用ください。
また、この機器は専用レンジフード（別売）と同時設置しませんとご使用になれませんので
ご注意ください。

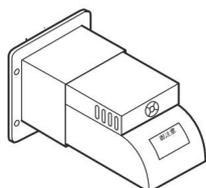
機器本体 ML-JS5号FF型



詳細は 3-1

以下別売部品

給排気トップ JS-A型



詳細は 3-2

エルボ接続管



(2本1組)

直接続管



(2本1組)

詳細は
3-3

給排気延長部材

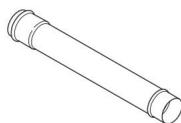
詳細は 3-3



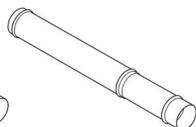
90°エルボ



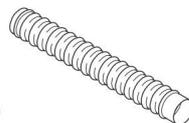
45°エルボ



直管



直スライド管



フレキ管



ストップリング

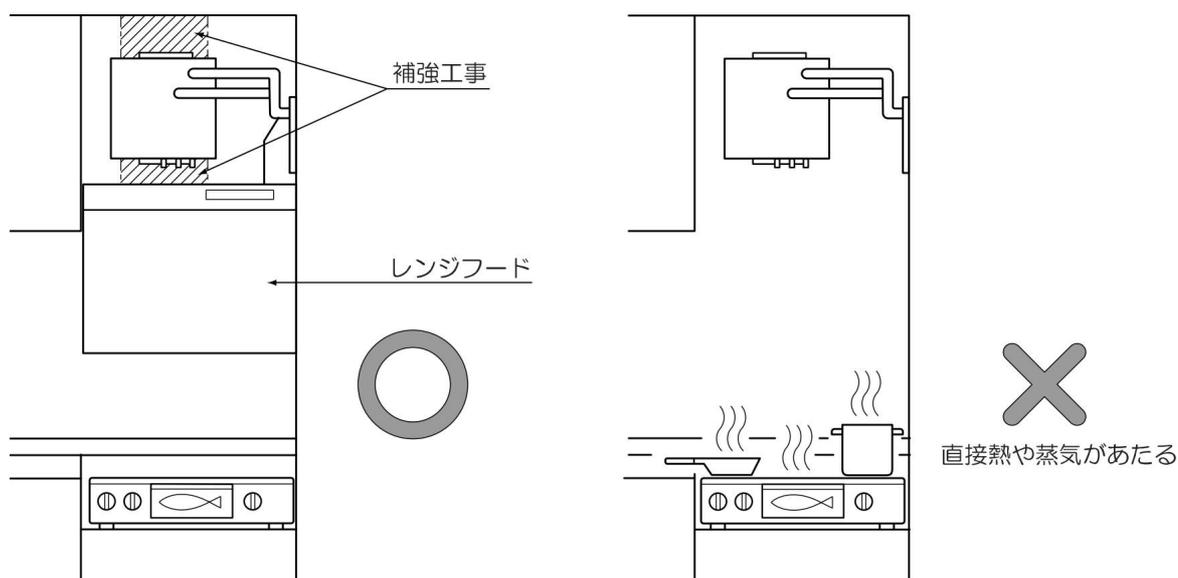
2 設置場所の確認

★ 施工される前に設置場所について次のことを確認してください。

- ⚠警告** ・ 燃焼機器を設置する場所には、建築基準法や電気設備技術基準火災予防条件に定める防火処置を施す必要があります。
- ・ 施工にあたっては、「ガス機器の設置基準及び実務指針」を参考にしてください。
 - ・ なお、この機器の工事を行う場合は、「特定ガス消費機器設置工事監督者」のもとに行わなければ取り付けできません。
 - ・ 給排気トップや給排気管の Oリングの欠損、管の変形やはずれのないように施工してください。不備のまま施工すると排気ガスが室内に漏れ一酸化炭素中毒の恐れがあり大変危険です。施工後も、もう一度確認してください。

2-1 機器本体の設置場所について

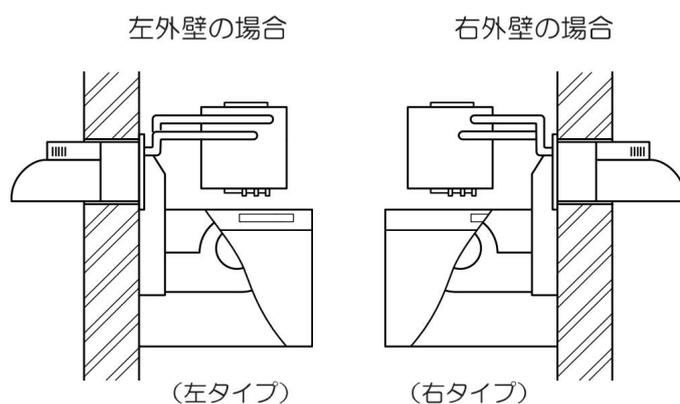
- 設置する壁には、約12kgの重量が加わりますので十分な強度がない場合は補強工事を行ってください。
- この機器は屋内設置型です。屋外や浴室には絶対に設置しないでください。
- こんろやレンジの熱を直接受ける場所には設置しないでください。
- 機器の点検・修理ができるよう、周囲は十分なスペースを確保してください。



※ 参考

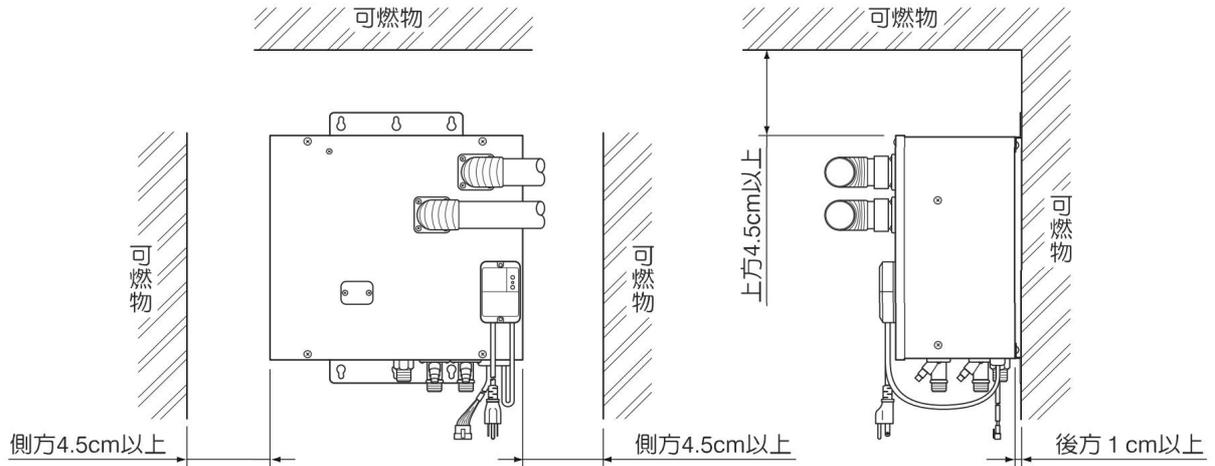
機器本体及び給排気トップに左右タイプはありませんが、専用レンジフードには外壁に合わせて左右タイプがあります。

[右図を参考にしてください。]



2-2 機器本体と周囲との離隔距離について

- 本機器を取り付ける周囲の条件は、火災予防上可燃物より下図寸法以上の空間を確保してください。



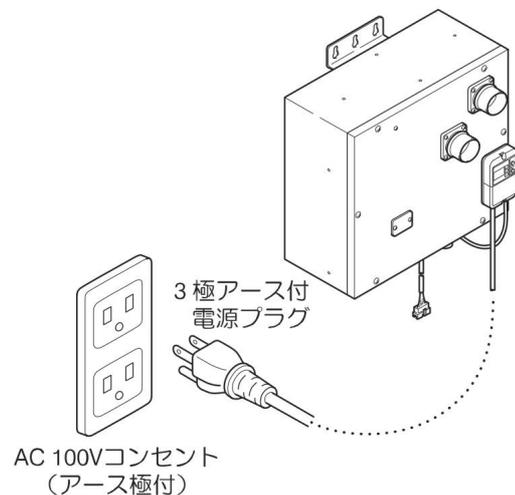
ガス機器防火性能評定品			
可燃物からの離隔距離 (cm)			
上方	側方	前方	後方
4.5以上	4.5以上	—	1以上
一般財団法人日本ガス機器検査協会			

2-3 機器本体の周囲の雰囲気について

- ガソリン・ベンジン・接着剤など、引火性の危険物を扱う場所には設置しないでください。
- アンモニア・塩素・硫黄・酸類など、腐蝕性ガスの発生する場所には設置しないでください。

2-4 機器本体の電源について

- この機器には、AC100V（アース極付）電源が必要です。
- 機器本体付属の漏電ブレーカ付電源コード以外は使用しないでください。



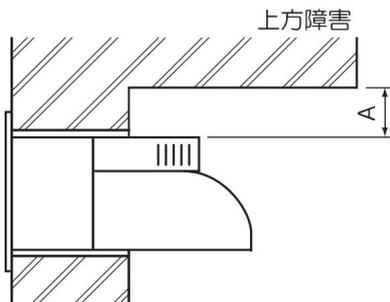
2-5 給排気トップの設置場所について

- 給排気トップは外壁面に取り付け、燃焼に必要な空気の給排気を行うものですから、必ず外気に通じる場所に設置してください。
- 給排気トップは十分に開放された屋外空間、排気の滞留しない空間を有する開放廊下や、バルコニー等に接して設けてください。
また、周辺に建築物の突出部の障害物がない事を基本とし、障害物がある場合は排気が障害物にあたって給気側に流入しない位置としてください。
- 施工にあたっては「ガス機器の設備基準及び実務指針」を参考にしてください。

2-6 給排気トップと周囲との離隔距離について

- 給排気トップを設置する周囲は、火災予防上可燃物より下図の寸法以上の空間を確保してください。

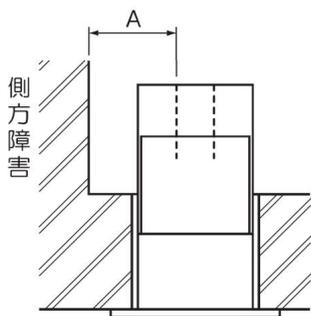
- ① 上方の障害物との離隔距離……………前方および側方に障害物がない場合、上方の障害物との離隔距離を左図のようにとってください。



	可燃物	不燃材 (耐火構造)
A	300以上	※0以上

※50以下では天井面が変色するおそれがあります。

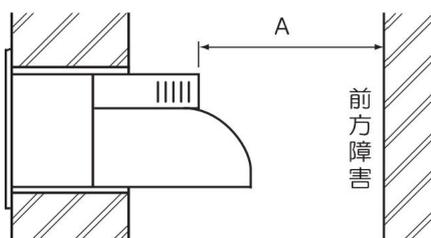
- ② 側方の障害物との離隔距離……………前方に障害物がない場合、側方の障害物との離隔距離を左図のようにとってください。



	可燃物	不燃材 (耐火構造)
A	150以上	※100以上

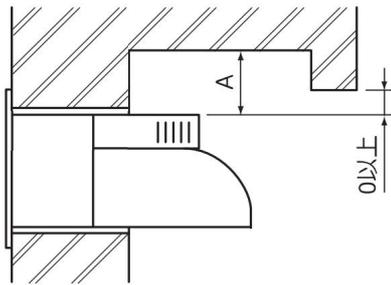
※150以下では壁面が変色するおそれがあります。

- ③ 前方の障害物との離隔距離……………上方、下方、側方に障害物がない場合、前方の障害物との離隔距離を左図のようにとってください。



	可燃物	不燃材 (耐火構造)
A	600以上	300以上

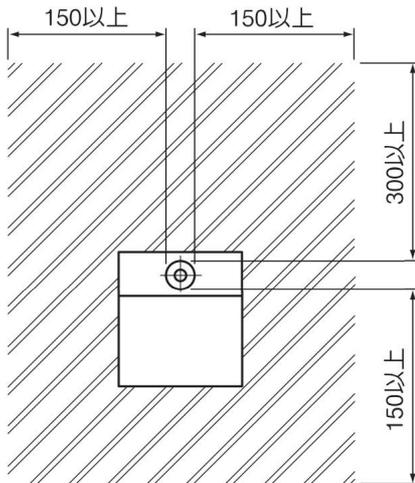
④ タレ壁との離隔距離.....前方のタレ壁との離隔距離を左図のようにとってください。



	可燃物	不燃材 (耐火構造)
A	300以上	※0以上

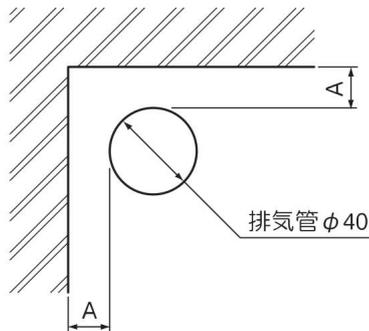
※50以下では天井面が変色するおそれがあります。

⑤ 建物開口部との離隔距離.....周囲の建物開口部（窓等）とは次の離隔距離をとってください。



////// の範囲以内に建物開口部があってはならない。

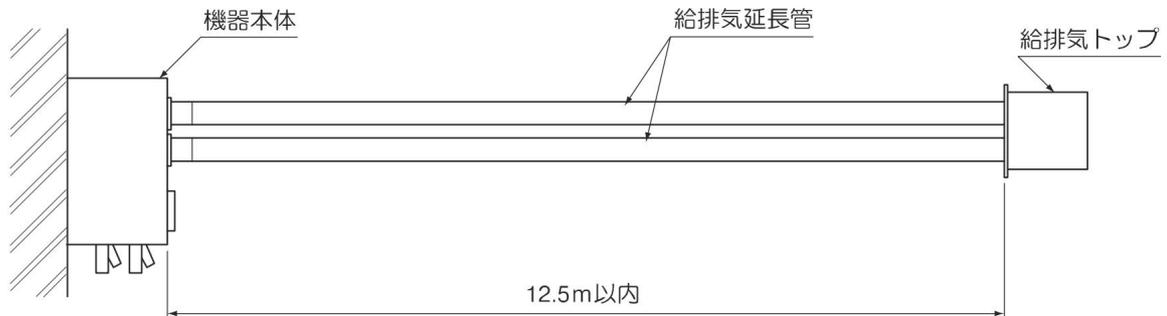
⑥ 排気管との離隔距離.....周囲との離隔距離を左図のようにとってください。



	可燃物	不燃材 (耐火構造)
A	20以上	0以上

2-7 給排気延長能力（5m5曲り）について

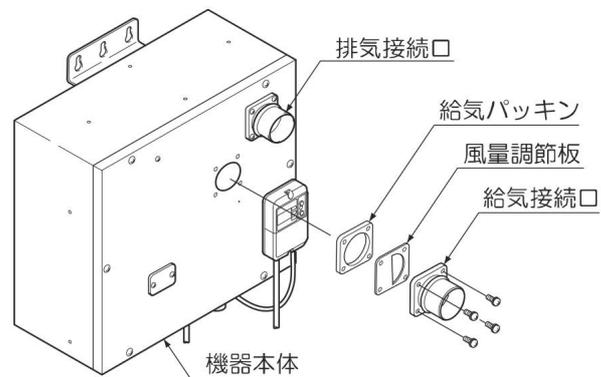
- この機器の最大延長能力は給気側・排気側を合計した全直管相当長さ25mです。設置にあたっては、最大延長能力以内としてください。



給気管直管相当最大長さ	$5\text{m} + (5\text{曲り} \times 1.5\text{m}) = 12.5\text{m}$
+ 排気管直管相当最大長さ	$5\text{m} + (5\text{曲り} \times 1.5\text{m}) = 12.5\text{m}$
全直管相当最大長さ	25m

ご注意 1曲り=1.5m 相当長さとして計算します。

- 延長距離によって風量調節が必要
です。
全直管相当長さが17m以上の場合は給気接続部の「風量調節板」を取り外してください。

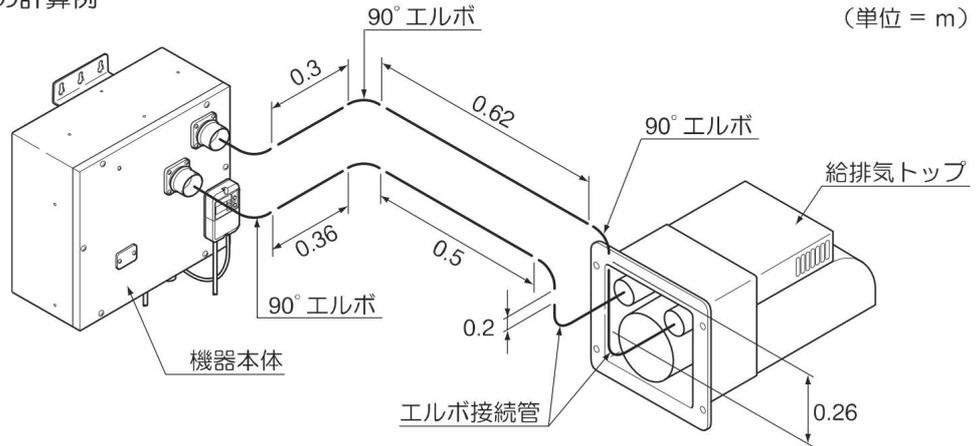


全直管相当長さ（給気管・排気管延長の合計）	風量調節板
～17m以内	要
17m以上～25m以下	不要

お願い

出荷時は「風量調節板」が組み込まれております。
全直管相当長さが17m以内の場合は、そのまま施工してください。
17m以上～25m以下の場合は、「風量調節板」を取り外して施工してください。

● 全直管相当長さの計算例

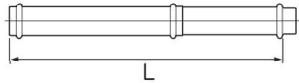


排気管直管相当長さ $0.3 + 0.62 + 0.26 + (4 \text{ 曲り} \times 1.5) = 7.18$
 +) 給気管直管相当長さ $0.36 + 0.5 + 0.2 + (4 \text{ 曲り} \times 1.5) = 7.06$

 全直管合計相当長さ $= 14.24$

お願い

- 1 給排気管の直管相当長さは (3-3) 給排気部材の項を参照してください。
- 2 スライド管は長さの調節が可能です。設置状態の長さをカウントしてください。



- 3 フレキ管は曲げ方によって、右の直管相当長さとしてください。

曲げ方	直管相当長さ
	0.5m
	1.0m
	1.5m

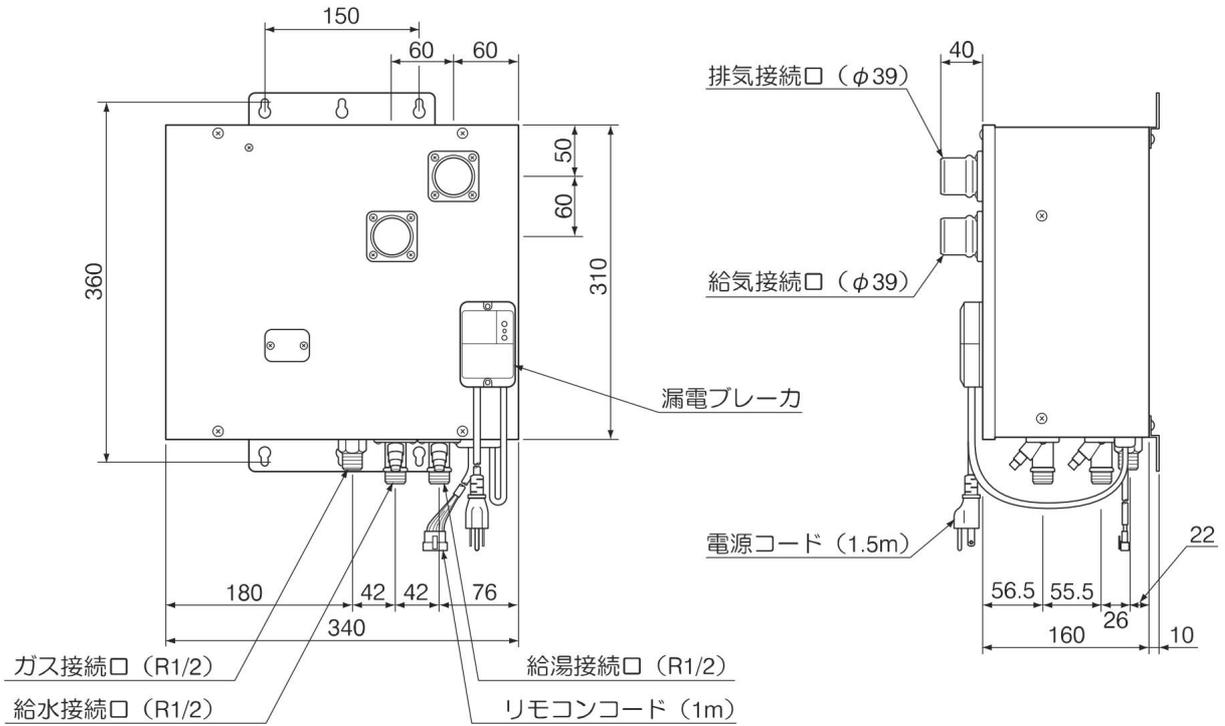
● 「風量調節板」取り付け・取り外し早見表

	給気側と排気側の直管部を足した長さ (m)	
給気側と排気側の曲り数を足した数 (曲り)	16	← 1.0m以内 →
	15	← 2.5m以内 →
	14	← 4.0m以内 →
	13	← 5.5m以内 →
	12	← 7.0m以内 →
	11	← 0.5m以内 → ← 0.5m以上~8.5m以内 →
	10	← 2.0m以内 → ← 2.0m以上~10.0m以内 →
	9	← 3.5m以内 → ← 3.5m以上~11.5m以内 →
	8	← 5.0m以内 → ← 5.0m以上~13.0m以内 →
	7	← 6.5m以内 → ← 6.5m以上~14.5m以内 →
	6	← 8.0m以内 → ← 8.0m以上~16.0m以内 →
	5	← 9.5m以内 → ← 9.5m以上~17.5m以内 →
4	← 11.0m以内 → ← 11m以上~19m以内 →	
	風量調節板必要域	風量調節板不要域
	要	不要

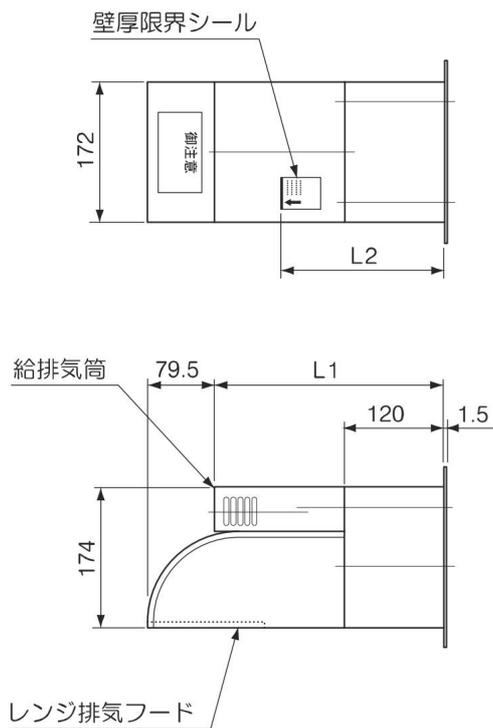
⚠ 注意 ガス種が12Aの場合は、給気側・排気側を合計した全直管相当長さを10m以上としてください。

3 各部の名称・外形寸法図

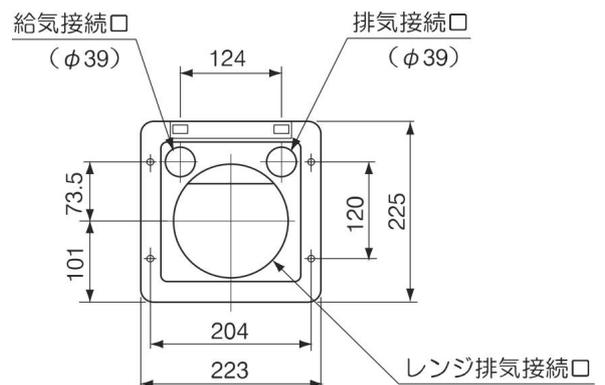
3-1 機器本体 (ML-JS5号FF型)



3-2 給排気トップ (JS-A) 別売



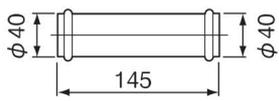
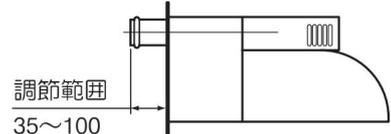
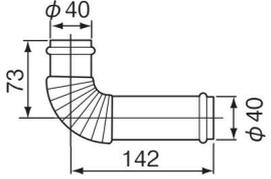
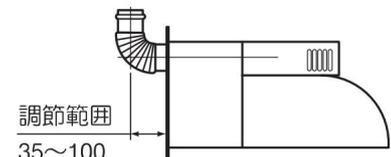
タイプ	L1寸法	L2寸法	許容壁厚
200	280	200	~200mmまで
250	330	250	~250mmまで
300	380	300	~300mmまで
350	430	350	~350mmまで
400	480	400	~400mmまで
450	530	450	~450mmまで
500	580	500	~500mmまで



3-3 給排気部材（別売）

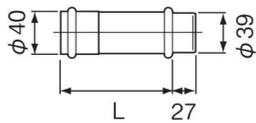
● 接続管

○ 給排気トップと給排気管の接続部に使用します。

名称	形状・寸法	直管相当長さ	用途
直接接続管	 <p>(2本1組)</p>	0 m	<直接接続>  <p>調節範囲 35~100</p>
エルボ接続管	 <p>(2本1組)</p>	1.5 m	<エルボ接続>  <p>調節範囲 35~100</p>

● 給排気管

○ 機器本体と給排気トップ間の延長配管に使用します。

名称	形状・寸法	タイプ	L寸法	直管相当長さ(m)
直管		Y1- 50	50	0.05
		- 60	60	0.06
		- 70	70	0.07
		- 80	80	0.08
		- 90	90	0.09
		-100	100	0.10
		-150	150	0.15
		-200	200	0.20
		-300	300	0.30
		-400	400	0.40
		-500	500	0.50
		-900	900	0.90

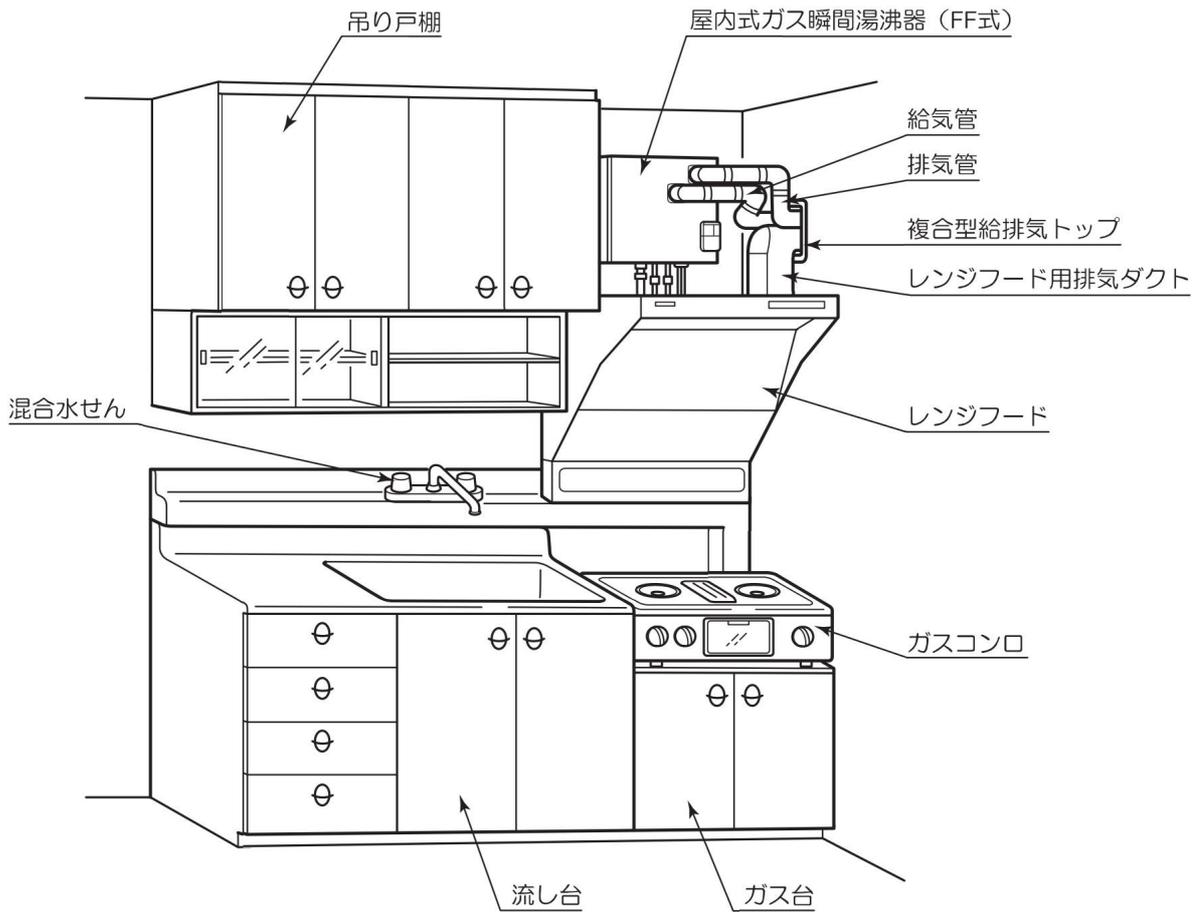
名称	形状・寸法	タイプ	L寸法	直管相当長さ(m)
直スライド管		Y2-100	100～ 130	0.10 ～0.13
		-125	125～ 180	0.125～0.18
		-150	150～ 230	0.15 ～0.23
		-200	200～ 330	0.20 ～0.33
		-300	300～ 530	0.30 ～0.53
		-400	400～ 730	0.40 ～0.73
		-500	500～ 930	0.50 ～0.93
		-900	900～1730	0.90 ～1.73
フレキ管		Y3-150	150	(2-7) 給排気延長能力についての項を参照してください。
		-200	200	
		-250	250	
		-300	300	
		-350	350	
90°エルボ		Y4	—	1.5 m
45°エルボ		Y5	—	0.5 m
ストップリング		Y6	—	—

4 機器の設置と電気・ガス・給水接続

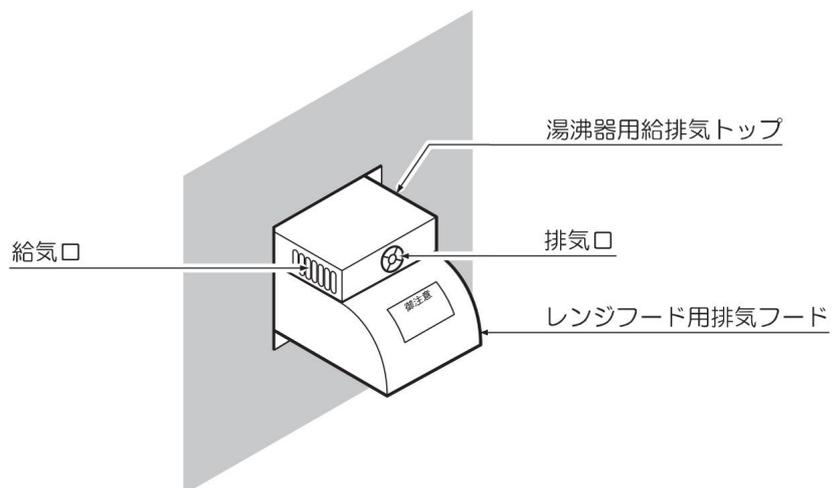
☆ レンジフード及び排気ダクトは各々の「工事説明書」に従い、設置してください。

4-1 標準設置図

● 室内……………台所



● 室外……………フード部



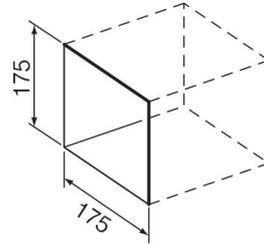
4-2 機器の設置

★ 機器の設置は、以下の手順で行ってください。

【手順1】 給排気トップの取り付け

● 壁貫通穴標準寸法

給排気トップの壁貫通穴は175mm×175mm以上
必要です。

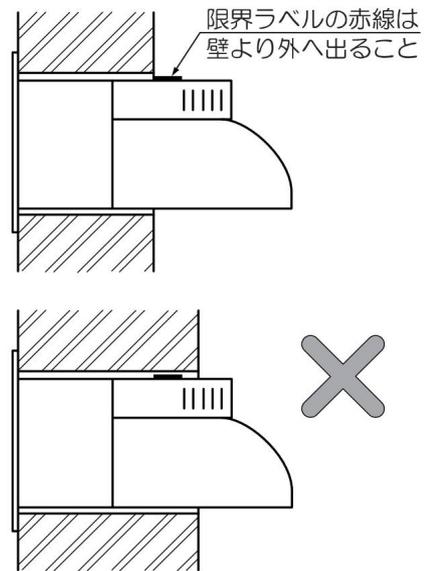


⚠ 注意

トップの給排気部（限界ラベルの赤線）は、完全に壁の外に出るように壁厚に合った寸法のトップを取り付けてください。

給排気トップの種類は (3-2) を参照してください。

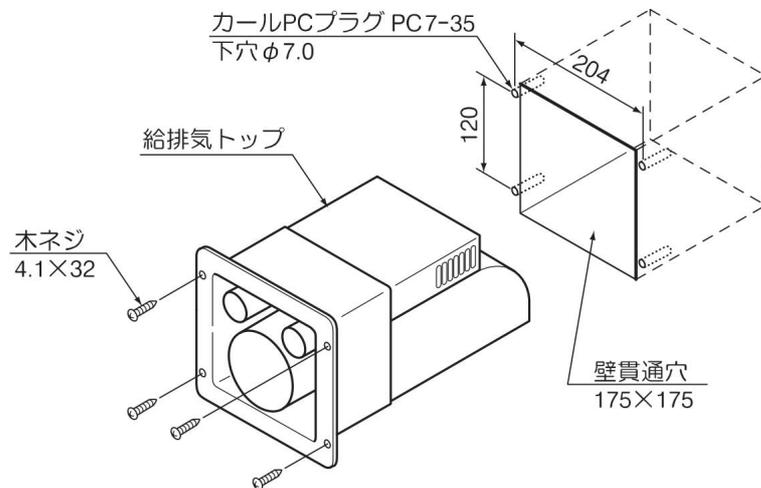
〔寸足らずのトップで使用すると不完全燃焼や立ち消えのおそれがあり大変危険です。施工後も、もう一度確認してください。〕



作業内容

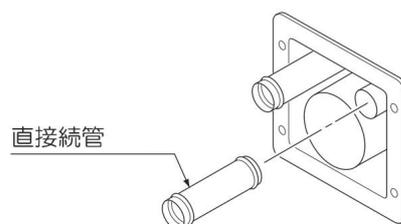
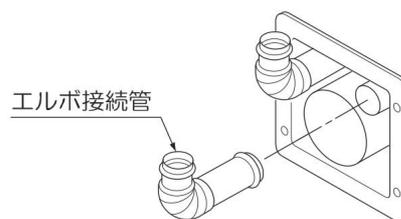
説明図

- ① 右図のピッチでφ7.0の下穴を4カ所あけ、付属のカールPCプラグと木ネジで固定します。



② 機器本体との接続に見合った「接続管」を選定し給排気トップに挿入しておきます。

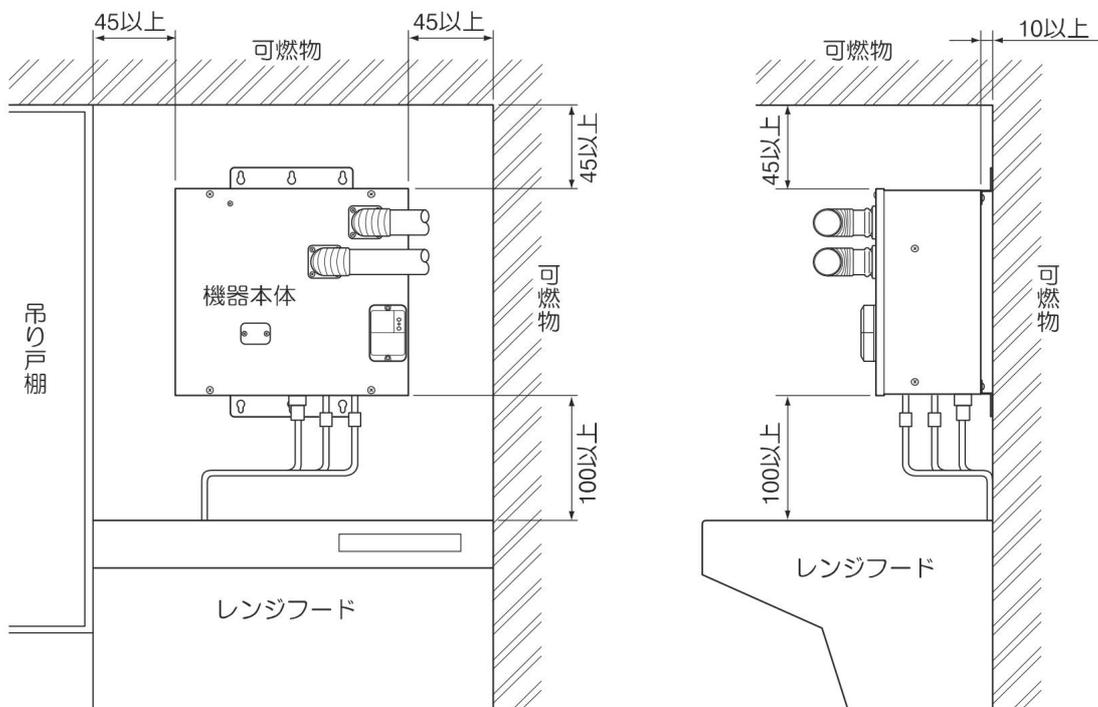
〔レンジフード用の排気ダクトと接触・無理な交差等の干渉をしない配管経路を決めてください。〕



【手順2】 機器本体の取り付け

● 標準設置寸法

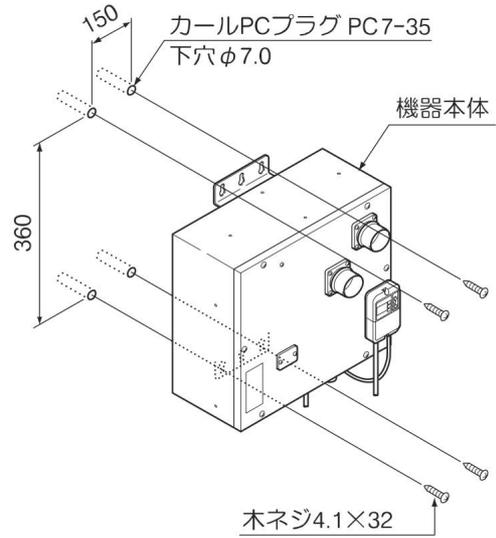
可燃物からの離隔距離及び配管スペースは下図を参考にしてください。



作業内容

説明図

- ① 右図のピッチでφ7.0の下穴を4カ所あけ、付属のカールPCプラグと木ネジで固定します。



【手順3】 給排気管の接続

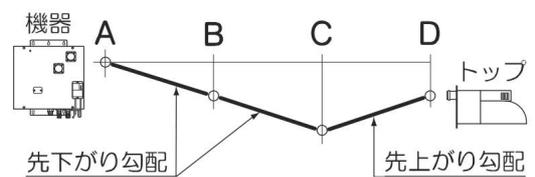
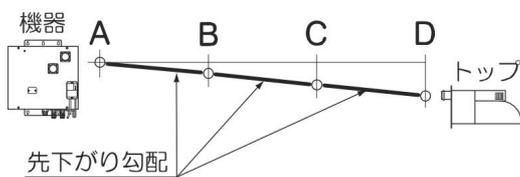
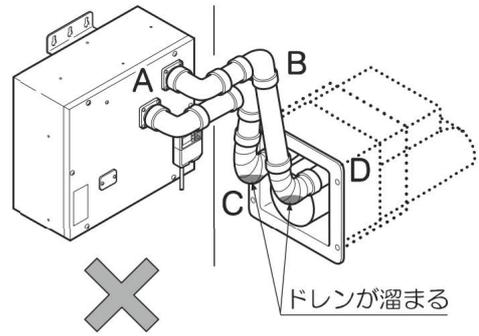
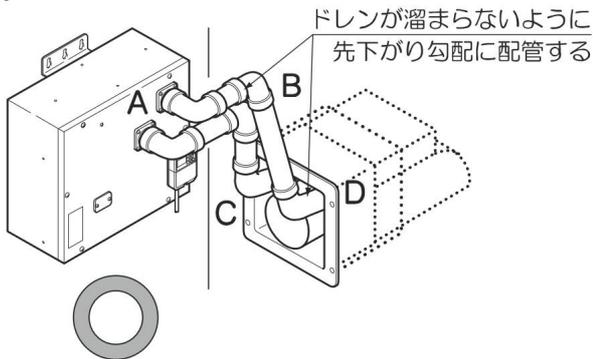
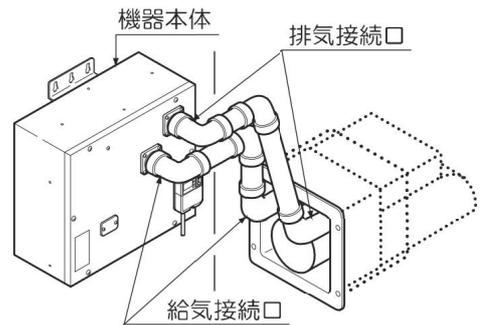
⚠️ 注意

給排気管は機器の給気接続口とトップの給気接続口、機器の排気接続口とトップの排気接続口にそれぞれ接続します。

〔給排気を誤接続すると不完全燃焼や立ち消え等のおそれがあり大変危険です。施工後も、もう一度確認してください。〕

■ ドレン滞留防止

- 給排気管はドレンが溜まらないように先下がり勾配とし、途中で先上がり勾配のない配管をしてください。



⚠ 警告

給排気トップや給排気管の Oリングの欠損、管の変形やはずれのないように施工してください。

不備のまま施工すると排気ガスが室内に漏れ大変危険です。施工後も、もう一度確認してください。



作業内容

説明図

- ① 機器本体と給排気トップ間は、給排気管で接続します。各接続部はストップリングで抜けないように固定してください。

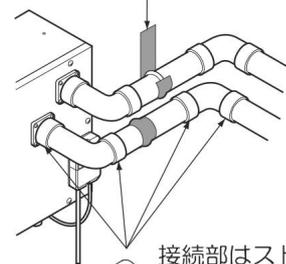
スライド管は、許容量以上引き出さないでください。また、スライド部はアルミテープで固定してください。

〔レンジフード用の排気ダクトと接触・無理な交差等の干渉をしない配管経路を決めてください。〕

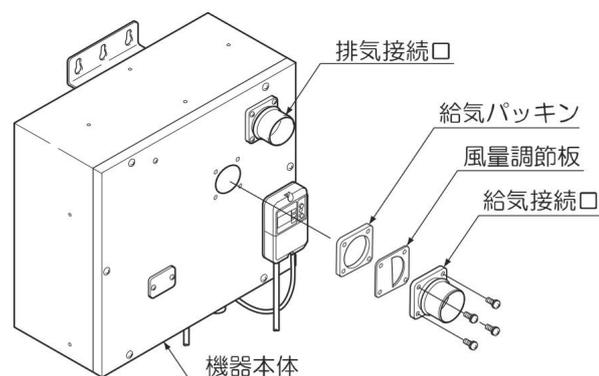
- ② 延長距離によって風量の調節をしてください。詳しくは (2-7) 給排気延長能力についての項を参照してください。

参考…給排気の最大延長能力は、
給気側+排気側=合計25mです。
1曲=1.5mで計算
全直管相当長さが17m以上の時、
「風量調節板」を取り外してください。

スライド部はアルミテープで固定する



接続部はストップリングで固定する



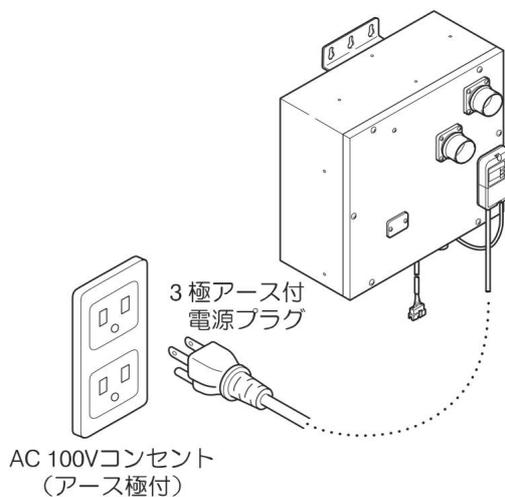
全直管相当長さ (給気管・排気管延長の合計)	風量調節板
~17m以内	要
17m以上~25m以下	不要

【手順4】 電気工事

⚠注意

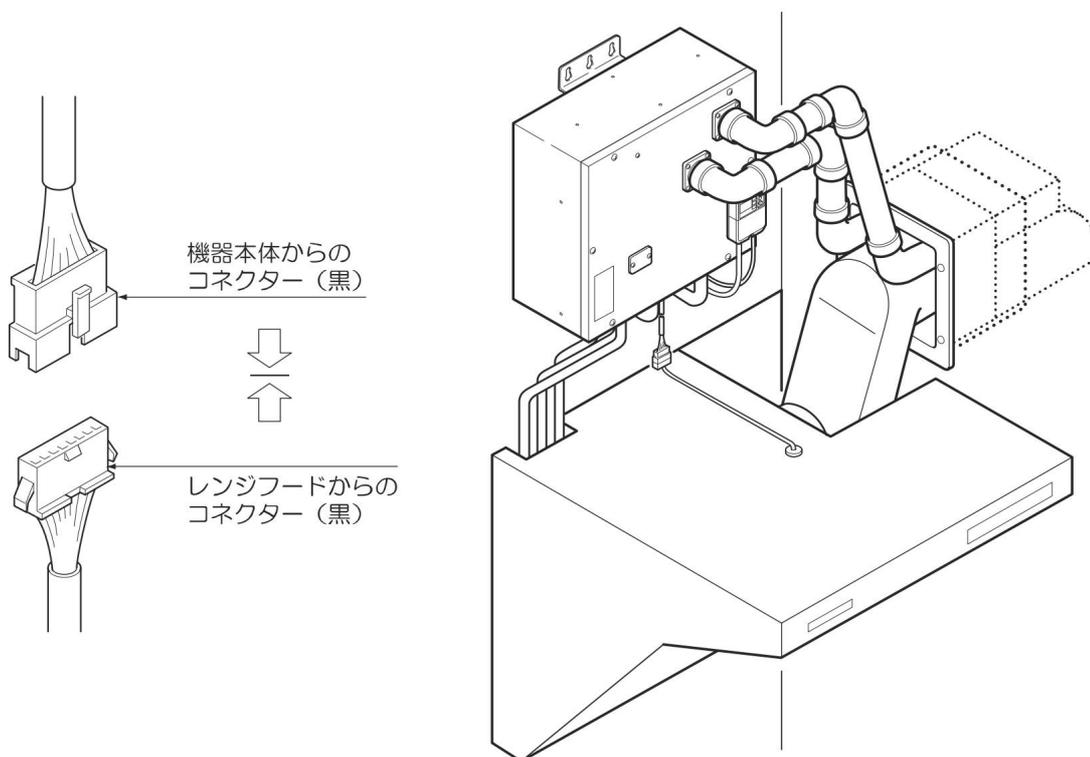
・万一の漏電事故防止のため、電気設備に関する技術基準の定める省令に従い、電気工事士による第3種接地（アース）工事を行ってください。

- この機器は、AC100V電源（アース極付コンセント）が必要です。
- アース極付コンセントの新設・移設等は電力会社の指定工事店にご相談ください。
- 機器への入力電源は付属の3極アース付電源プラグ以外は使用しないでください。
- **試運転**までは、コンセントに電源プラグを差し込まないでください。



【手順5】 リモコンの接続

- この機器を操作するリモコンは専用レンジフードに組み込まれています。
- レンジフードの設置後に、レンジフードから出ているリモコンのコネクター（黒）と接続してください。

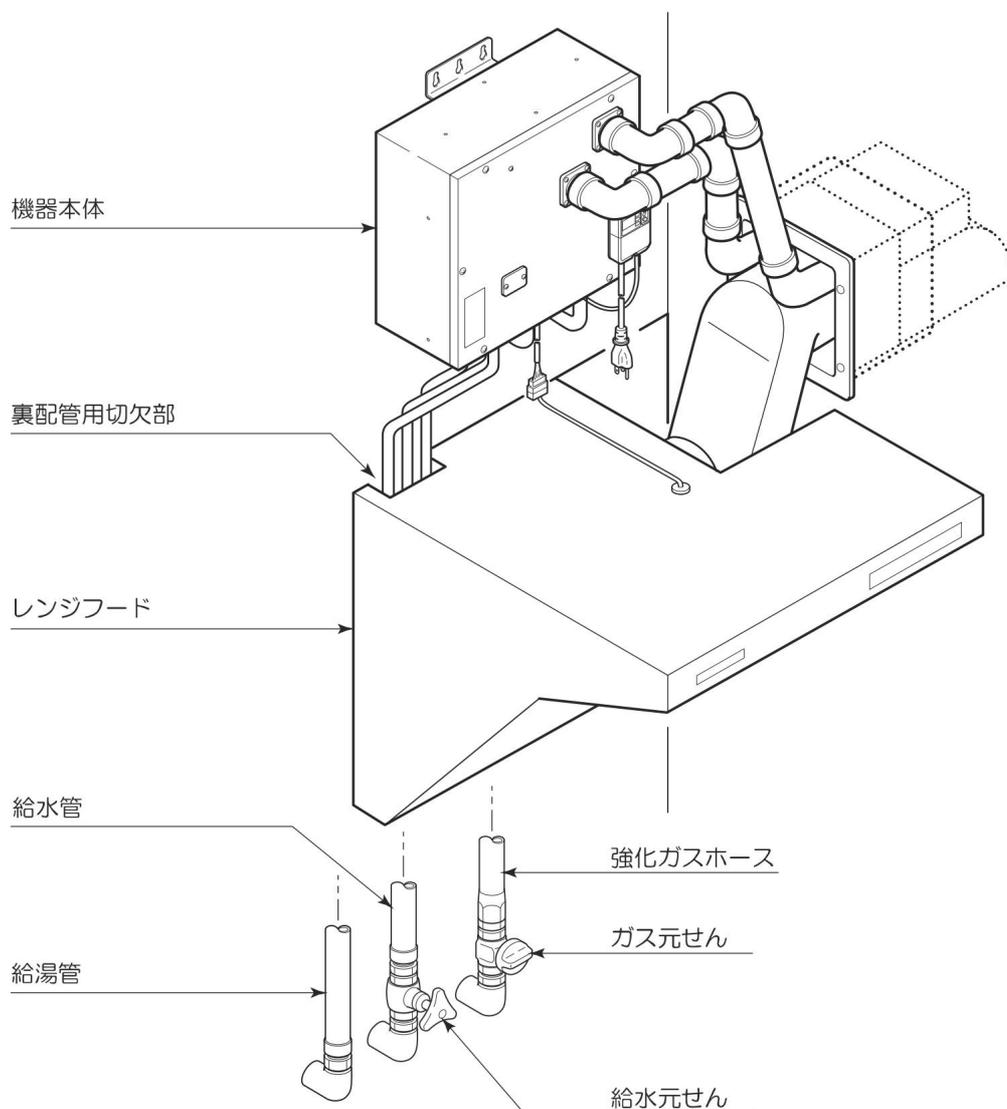


【手順6】 給水・給湯配管工事

⚠注意

給水配管工事は、水道事業者の指定工事店に依頼し、水道事業者の指定に従ってください。

- 配管接続口は、給水・給湯とも15A (R1/2) です。
- 専用の給水元せんを必ず取り付けてください。
- 給水・給湯管は、レンジフードの裏配管用の切欠部を通しますので、レンジフードの設置位置との関係に注意してください。
- 給水配管は機器へ接続する前に、水を通し配管内のゴミ・砂等を洗い流してから接続してください。
- 接続後は、機器の通水テストを行い、水漏れのないことを確認してください。
- 給水、給湯配管に塩ビ管を使用しないでください。機器の使用直後に熱交換機器の後沸きにより塩ビ管が破裂し、熱湯が吹き出したり、多量の水漏れの原因となります。

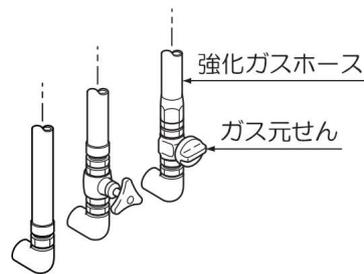


【手順7】 ガス配管工事

⚠注意 ・ ガス接続口に給水を接続し通水した場合は、機器は使用できなくなります。通水前に必ず、もう一度確かめてください。

そのまま使用するとガス電磁弁が破損し、ガス漏れ等の重大事故となります。

- 強化ガスホースの接続は、内管工事士、簡易内管施工士、ガス機器設置スペシャリスト、ガス可とう管接続工事監督者のいずれかの必要な資格を有する者が施工すること。



- 配管接続口は、15A (R1/2) TU接続です。
- 専用のガス元せんを必ず取り付けてください。
- ガス管は、レンジフードの裏配管用の切欠部を通しますので、レンジフードの設置位置との関係に注意してください。
- 配管材料は強化ガスホースを使用してください。
- ガス配管終了後は、機器との接続部にガス漏れのないことを確認してください。
〔配管参考図は、【手順6】の給水・給湯配管工事の項を参照してください。〕

5 仕様

品名	F F型屋内式ガス瞬間湯沸器	
製品名	M L - J S 5号 F F	
種類	給湯方式	先止め式
	設置・給排気方式	壁掛形・強制給排気方式
点火方式	連続放電・ダイレクト着火	
水圧	使用水圧	50~500kPa
	作動水圧	20kPa
最低作動流量	2.0ℓ/分	
外形寸法	高さ310mm×幅340mm×奥行160mm	
重量	11.8kg	
接続	ガス	15A (R1/2) TU接続可能
	給水	15A (R1/2)
	給湯	15A (R1/2)
	給排気筒	φ40
電気関係	電源	A C 100V (50/60Hz)
	消費電力	40W
	電源コードの長さ	1.5m
給湯能力切替	約5.2号~約2.6号	
消し忘れ防止機能	20分	
エネルギー消費効率	C 80.0%	
安全装置	立ち消え安全装置 空焚安全装置 過圧逃がし弁 凍結予防装置 (手動水抜きせん) 誘導雷保護装置	器体過熱安全装置 ファン回転検出装置 漏電安全装置 電流ヒューズ
付属品	取付ネジセット	
別売品	給排気トップ・接続管・給排気延長管	

(例：都市ガス13Aの場合)

6 設置工事後の点検・確認

- 設置工事が終わりましたら、つぎの項目を再チェックしてください。

点検項目		点検内容	参考項目	チェック
機器及びその周辺	ガス種	機器が使用するガス種に適合していますか。(銘板確認)	(1-1)	
	電源(電圧・周波数)	電源電圧(100V)・周波数(50/60Hz)に適していますか。(銘板確認)	(1-1)	
	可燃物との離隔距離	可燃物との離隔距離、火災予防上の措置は十分ですか。	(2-2)	
	設置条件	障害物、窓等との離隔距離は十分ですか。	(2-6)	
	保守・管理上の空間	点検・修理に必要な空間はありますか。	(2-1)	
	安定設置	機器は安定に設置され、ガタツキ、ネジのゆるみ等はないですか。	(4-2)	
	給排気	十分給排気できる場所に施工されていますか。	(2-5)	
電気工事		電源工事は指定された工事がされていますか。	(4-2)	
		コンセントはアース極付(AC100V)になっていますか。	(4-2)	
給水給湯配管		給水圧は十分ですか。	(4-2)	
		配管接続部からの水漏れはありませんか。	(4-2)	
ガス接続工事	接続は正しく施工され、ガス漏れはありませんか。	(4-2)		

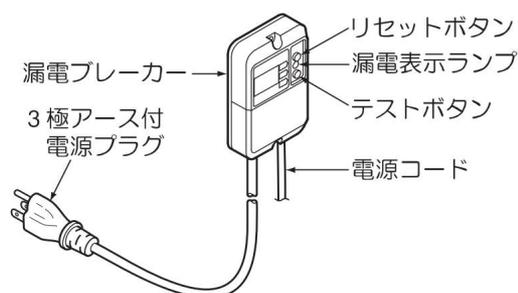
7 試運転

- 取扱説明書に基づき、試運転を行ってください。

作動順序(シーケンス)の概略

- 1 漏電ブレーカーをON(入)すると、機器へ通電されます。

〔漏電表示ランプが点灯していたら、リセットボタンを押してランプが消灯することを確かめてください。〕



- 2 運転スイッチをON(入)すると、湯温表示ランプが点灯し、点火準備となります。
- 3 給湯せんを開くと、水が流れて流量スイッチがON(入)し、燃焼ファンが回ります。
- 4 送風量が所定値に達すると、点火動作(イグナイターより連続放電)に入ります。
- 5 パーナに着火し完全な火移りをするると燃焼ランプが点灯し燃焼を継続します。
(燃焼中、燃焼ランプは点灯し続けます。)
- 6 給湯せんを閉じると流量スイッチがOFF(切)し、消火します。
運転スイッチをもう一度押すとOFF(切)し、湯温表示ランプが消え、終了します。

- 正常に運転しない時は (8 試運転時の異常の見分け方と処置) 項目をご覧ください。
- 試運転が終わりましたら、給水元せん・ガス元せんを閉じてください。
また試運転後、長期間使用しないときは機器の水抜きを行ってください。

8 試運転時の異常の見分け方と処置

- 正常に運転しないときは、下記項目を再確認してください。

原因	現象							処置方法
	リモコンが点灯しない	点火しない	点火時に大きな音がする	使用中に消火する	異常な音をたてて燃える	高温のお湯がでない	低温にしても熱い	
プラグのはずれ	●	●						確実に接続する
漏電ブレーカーが作動している	●	●						漏電ブレーカーをリセットする
運転スイッチが入っていない	●	●						運転スイッチを入れる
使用電源が違ふ	●	●						電力会社へ連絡する
ガス元せんの開け忘れ		●						ガス元せんを開く
ガス元せんの開き不十分		●	●	●		●		ガス元せんを全開にする
配管内に空気が残っている		●						点火操作を繰り返す
ガスの種類が違っている		●	●	●	●	●	●	適合品に交換する
ガス管の接続が不完全							●	接続をやりなおす
ガスメーターの安全装置が作動している		●						安全装置をリセットする
給水元せんの開け忘れ		●						給水元せんを開く
給水接続口のフィルターが目づまり		●					●	給水接続口のフィルターを掃除する
給湯せんの開き不十分		●					●	給湯せんを全開にする
水圧の変動（不安定）							●	安定するまで待つ
給排気トップの不適合		●	●	●	●			適合品に交換する
給排気トップ周囲に障害物		●	●	●	●			障害物を取り除く

- 以上の確認をしても正常に運転しないときは、最寄りの日本総合住生活株式会社または下記までご連絡ください。

連絡先（製造元）モリタ工業株式会社

関東地区 ☎ 048-225-2481

近畿地区 ☎ 06-6829-6705

9 お客様への説明

- 取扱説明書の使用方法にもとづいてお客様に使用方法を説明してください。
- 保証期間（無料修理期間は設置後1年間）について説明してください。
- この工事説明書は取扱説明書とともにお客様にお渡しください。

担当支店および緊急お問い合わせ先

東京東支店	☎03 (5653) 2131	〒136-0075	江東区新砂 1-6-35 Nビル東陽町 5F
城北支店	☎03 (3601) 5161	〒125-0062	葛飾区青戸 3-11
東京北支店	☎03 (6915) 5711	〒173-0004	板橋区板橋 3-9-7 板橋センタービルディング 10F
東京南支店	☎03 (6424) 5461	〒144-8721	大田区蒲田 5-37-1 ニッセイアロマスクエア 9F
北多摩支店	☎042 (538) 2051	〒190-0003	立川市栄町 6-1-1 立飛ビル7号館 8F
南多摩支店	☎042 (372) 5111	〒206-0031	多摩市豊ヶ丘 4-7
緊急事故受付センター（東京地区）			 0570-002-004
★一部のIP電話等をご利用いただけない場合は			048-839-0901
千葉支店	☎043 (216) 2636	〒261-8501	千葉市美浜区中瀬 1-3 幕張テクノガーデンD棟 21F
千葉西支店	☎047 (481) 8411	〒275-0016	習志野市津田沼 5-12-4 習志野クレスト 4F
千葉北支店	☎04 (7144) 8173	〒277-0845	柏市豊四季台 2-1-105-101
緊急事故受付センター（千葉地区）			 0570-002-004
★一部のIP電話等をご利用いただけない場合は			048-839-0901
横浜支店	☎045 (470) 8611	〒222-0033	横浜市港北区新横浜 2-3-19 新横浜ミネタビル 9F
横浜南支店	☎045 (833) 3075	〒235-0045	横浜市磯子区洋光台 4-2-25
神奈川西支店	☎046 (206) 1071	〒242-0013	大和市深見台 3-1-13
緊急事故受付センター（神奈川地区）			 0570-002-004
★一部のIP電話等をご利用いただけない場合は			048-839-0901
浦和支店	☎048 (882) 7141	〒336-0017	さいたま市南区南浦和 3-49-53
東埼玉支店	☎048 (935) 2271	〒340-0053	草加市旭町 3-3-1
西埼玉支店	☎049 (261) 1874	〒356-0006	ふじみ野市霞ヶ丘 1-2-27-305 ココネ上福岡二番館 3F
緊急事故受付センター（埼玉地区）			 0570-002-004
★一部のIP電話等をご利用いただけない場合は			048-839-0901
大阪中支店	☎06 (6977) 1500	〒537-0025	大阪市東成区中道 1-10-26 サクラ森ノ宮ビル 8F
大阪北支店	☎06 (6831) 1716	〒560-0083	豊中市新千里西町 1-1-4 千里中央ツインビル別館 3F
大阪南支店	☎072 (270) 9100	〒593-8303	堺市西区上野芝向ヶ丘町 6-6-40
兵庫支店	☎078 (251) 4458	〒651-0083	神戸市中央区浜辺通 5-1-14 神戸商工貿易センタービル 17F
阪神支店	☎06 (6495) 2001	〒661-0976	尼崎市潮江 1-3-30 KDIビル 1F
奈良支店	☎0742 (72) 1700	〒631-0806	奈良市朱雀 3-14-3
京都支店	☎075 (365) 1010	〒600-8441	京都市下京区新町通四条下ル四條町 347-1 CUBE西烏丸 5F
緊急事故受付センター（大阪地区）			 0570-004-001
★一部のIP電話等をご利用いただけない場合は			06-6969-2151
名古屋支社	☎052 (350) 2850	〒460-0024	名古屋市中区正木 3-5-30 名鉄正木第二ビル
名北支店	☎052 (911) 7216	〒462-0802	名古屋市中区上飯田北町 4-75-3
緊急事故受付センター（名古屋地区）			 0570-004-001
★一部のIP電話等をご利用いただけない場合は			052-350-2900
福岡支社	☎092 (861) 9755	〒814-0114	福岡市城南区金山団地 26-4
北九州支店	☎093 (923) 8830	〒802-0064	北九州市小倉北区片野 3-15-5
緊急事故受付センター（九州地区）			 0570-004-001
★一部のIP電話等をご利用いただけない場合は			092-861-2525

最新情報は、JSのホームページ等でご確認ください。

JS 日本総合住生活株式会社

東京都千代田区神田錦町 1-9 〒101-0054